

# ペンタブのレビューをするっばい

1113046 奥友航平

## 1. はじめに

私は大学に入ってから3年間あんまりお絵かきしなかったなあと反省しております。さらにペンタブレットもいろいろ買い替えてみたりして散財してしまいました。私の周りを見ても3年間で3枚もペンタブを買うような人は私くらいしかいないと思い、ペンタブに使った¥47,000分の供養も含めてペンタブレビューを書いてみようかと思った次第です。さて、今回紹介するペンタブはどれも面白い機能なり特徴を持っているのでそれがわかってもらえたらと思います。ただ、私の買ったものは少し古くなっている所以情報が違っていたりするかもしれませんが、ご容赦ください。

## 2. ペンタブの紹介

### 1. Bamboo comic

値段は大体¥8,000でした。Wacom製。私がお絵かきを始めるために大学生協で買ったペンタブです(図1参照)。今ではIntuosというブランドになりました。今でいうとIntuos smallという機種になります。

安価で小さいペンタブということで初めてデジタルで描く人のための入門用ペンタブとして最適だと思います。機能はシンプルに4つのボタンが有るのみです。取り消し、やり直し、保存があったのは覚えています。がキーボードで入力していたので殆ど使っていませんでした。ペンタブ上を指でなぞることで拡大縮小などができるタッチ機能付きでしたが、こちらほとんど使いませんでした。キーボードで操作したほうが圧倒的にやりやすかったです。

ところが、検知する範囲が狭い(125×85mm)ので腕で描くような人にとってカーソルが動きすぎてしまうという欠点もあります。筆圧検知は1024段階あるので入門としては十分だと思います。



図1 bamboo comic

## 2. Slim Pen Tablet

値段はこちらも¥8,000 程度, amazon だと¥6,740 らしいです. Princeton 製(図 2 参照). 当時「安価で intuos5(3 で紹介)と同等のスペックを持つペンタブ！」としてお絵かき系サイトで紹介されていました. スペック的には読み取り範囲が 254×158.75 mm(iPad の画面をひと回り小さくした感じ)で筆圧検知が 2048 段階でした. これは intuos5 とほぼ同じです. その他特徴的なスペックとして 510 g と非常に軽いです. 似たスペックの intuos5 と比べても重さは半分になります. しかし, 弱点としてペンが充電式で 2 分充電して 8 時間しか動かないというものがあります. 朝起きてお絵かきするときには少しめんどくさい仕様になってます. しかもペン先の根本が一段狭い構造になっているので, ペン先を交換するときにはうっかりポッキリいってしまうこともあるのでそこは気をつけないといけません. 付属のペン先交換クリップは役に立ちませんでした. さらに, タブレットがすこしプラスチック感が出ているので描いている時にガリガリといった描き味になり, そこは好きになれませんでした. 他にも傾き検知がなかったりしますが, そこは描いている時にはあまり気になりませんでした.

Slim Pen Tablet 特有の機能としてマルチファンクションキー(図 2 右側)というものがあります. これはキーボードのボタンやアプリを記憶しておいてペンでタッチするとそれを呼び出せる機能になります. ctrl+z や ctrl+s も記憶できるので左手をキーボードに置いておく必要がないという特徴があります. 私はキーボードに様々なショートカットを記憶させていたのでそれをファンクションキーで呼び出せるようにしておきました. 使っていたのがノート PC だから, キーボードをペンタブでほとんど埋めてもマルチファンクションキーで消しゴムや拡大縮小ができるというのは嬉しかったです.

ここまで書くと Slim Pen Tablet が一番のように思えるかもしれませんが, これには重大な欠点がありました. 「クリスタ(CLIP STUDIO PAINT)が使えない」とことと「動作不良を起こす」ことです. まず, 「クリスタが使えない」ことですが, 現在ドローイングソフトとして勢力を二分しているのが sai とクリスタになります. sai では普通に描けるのですが, クリスタではドライバが対応していないために描けません. というか描いても変な線を描きます. クリスタは更新が止まった sai とは違い更新が多い上にイラストの他に漫画を描く際に役に立つ機能があることからこれからは主流になっていくソフトです. ここまではクリスタ以外を使えばいいので問題ないのですが, 問題は次の「動作不良を起こす」ことです. 私が買ったあとひと月せずにカーソルが数 mm 浮いたペンに追従しなくなり, タブレットがペンに反

応しなくなりました。あまりに致命的なので交換してもらいましたがそれでもやっぱりひと月せずに同じような動作不良を起こしたのですぐさま押入れに仕舞って Intuos5 を買いました。



図 2 Slim Pen Tablet

### 3. Intuos5

世界で最も信用されている(らしい)ペンタブです。買った時には¥33,000 だったと思います。Wacom 製。基本的なスペックとして読み取り範囲が 223.5×139.7 mm で筆圧検知が 2048 段階になります(図 3 参照)。現在ペンタブの主力となっている Intuos Pro シリーズの M サイズであり、個人的にもこれを 1 つ買っておけば一生使っていけるものだと思います。値段が高めですがその分動作も安定しており、傾き検知や無線にも対応しているので機能は十分でしょう。ペンの描き味も良好で、ペンが引っかかること無くなめらかに描けるという点でも素晴らしい性能です。

特徴的な機能としてタッチホイールがありまして、これにはキャンバスの拡大縮小や回転、ブラシサイズの変更などを割り当てることが出来ます。ボタンも 8 つ付いているので、タッチホイールを使わなくても回転やブラシサイズの変更なら出来ます。ただ、拡大縮小以外はキーボードで代用できるのでいちいちボタンを押して切り替えるのが面倒くさくて私は拡大縮小しか使っていません。書くことがないのはそれだけ求められる機能ができているからです。迷ったらこれを買うのもいいでしょう。



図3 intuos5

### 3. まとめ

ペンタブは種類が少ないとはいえいきなり intuos5 を買うというのは金額的にもリスクであるもの。だからせめてスリムペンタブレットや bamboo で試してみるというのが一番安全策ではないでしょうか。それでも最後には intuos に行き着くとは思いますが、最近では液タブという液晶に絵が描ける高価なタブレットの中でも cintiq 13HD が安価な¥100,000 で販売されていたり、液タブに OS が搭載されているタイプが出てきたりと液タブの革新というのも目覚ましいものがあります。ペンタブ以外でも筆圧検知が高いタブレット PC が出たり、iPad 専用の¥9,000 程度のスタイラスペンが 10/3 に出たりと外に出てお絵かきする環境ができつつあるといえます。私もこれからもほそぼそと¥47,000 分描き続けられたらなぁと思います。



図4 3枚のペンタブと iPad の大きさ比較